

亜種に注目！

海老原美夫（さいたま市）

●「亜種」ってなに？

鳥類の分類は、「目(もく)」「科」「属」「種」の順になっています。例えばスズメですと、「スズメ目ハタオリドリ科スズメ属スズメ」となります。最後の「スズメ」が種の名前です。

ひとつの種の中で、地理的あるいは生態的に隔離されたために形態に差が生じている場合、「種」の下の分類として、さらに「亜種」に分類します。

野鳥の会の探鳥会など、通常の場合は「種」段階で識別できればいいのですが、さらに細かく季節ごとの生態などを見ていくと、「亜種」レベルの識別が必要になる場合があります。「亜種」レベルの識別をすることで、普段のマイフィールドの鳥見も一段と興味が広がります。というわけで、今回は亜種に注目のおすすめです。

●「亜科」についてのおまけの解説

日本野鳥の会発行の『フィールドガイド日本の野鳥』など、少し古い野鳥図鑑などでは、「科」と「属」の間にもうひとつ「亜科」というレベルがありました。ヒタキ科のツグミ亜科、ダルマエナガ亜科、ウグイス亜科、ヒタキ亜科、カササギヒタキ亜科がそうです。

ところが、2000年9月15日に発行された日本鳥学会の『日本鳥類目録改訂第6版』では、それぞれツグミ科、チメドリ科、ウグイス科、ヒタキ科、カササギヒタキ科になりました。つまり、今は「亜科」という分類はなくなっています。

●カワラヒワの場合

鳥類目録第6版によれば、カワラヒワの亜種は、

オオカワラヒワ

Carduelis sinica kawarahiba

カワラヒワ

Carduelis sinica minor

オガサワラカワラヒワ

Carduelis sinica kittlitzii

の3亜種です。(学名は最初が属名、次が種名、最後が亜種の名前です。)

このうち亜種カワラヒワが、北海道以南で繁殖し、県内でも一年を通して普通に見られるカワラヒワです。前は、「亜種コカワラヒワ」と呼ばれていました。

また、亜種コカワラヒワよりひとまわり大きくて北海道で繁殖するものが亜種カラフトカワラヒワとされていましたが、今はその亜種は認められておらず、亜種カワラヒワの中に含まれています。

この冬特に注目していただきたいのは、亜種オオカワラヒワです。

●亜種オオカワラヒワ



亜種カワラヒワに比べてひとまわり大きく、全体の色が少し薄く見え、特に三列風切外弁の白が幅広いのが特徴です。要するに、オオカワラヒワを横や後ろから見ると、翼の縁取りの白い部分が幅広く見えるということです。

日本には冬鳥として飛来します。草原で群れる亜種カワラヒワの中に何羽か混じっていることがあるというのが、今までの私の常識でした。ところが、今年の3月30日、さいたま市秋ヶ瀬公園子供の森で、桜の花に集まるシメやヒヨドリなどを見ていると、頭の上を30羽ほどの小鳥の群れが横切り、少し離れた樹冠にとまりました。

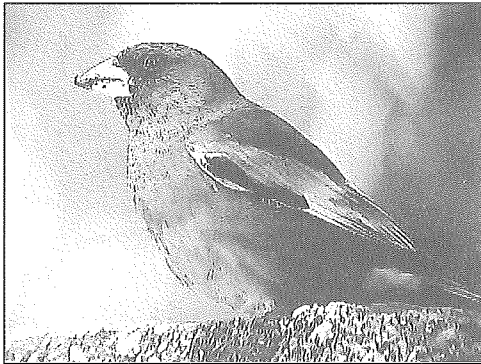
鳴き声からカワラヒワだと分かったのですが、念のため双眼鏡を向けてみたら、なんと、みんな亜種オオカワラヒワなのです。そのうちいっせいに林床に降り、草の実を争って食べていました。

林の中で 30 羽もの集団で行動する亜種オオカワラヒワを初めて見たのです。

私が知らなかっただけで、亜種オオカワラヒワだけの群れというのは、もっと多いのかもしれない。カワラヒワというだけであまり丁寧に観察してこなかった自分のうかつさを恥じ、この冬は注目したいと思っているわけです。

平凡社発行の『日本の野鳥 590』（写真：真木広造）には、「亜種オオカワラヒワよりやや大型の個体群も飛来しているという」とあります。もしかしたら……なんていう興味もあるわけです。

●亜種オガサワラカワラヒワについてのおまけの解説



亜種オガサワラカワラヒワは小笠原諸島と硫黄列島に留鳥として生息しています。埼玉県に飛来することはないのですが、今年の 4 月、小笠原母島で撮影できましたので、ついでにご紹介しておきます。

亜種カワラヒワよりやや小さめ、嘴は大きくて長め、三列風切外弁の白色部は幅広く、全体に黄緑色みが強いという特徴があります。このオスは特に翼の黄色部の面積が広く、雨覆まで黄色でした。メスは全体に色が褪せている感じでかなり地味でした。

何しろカワラヒワなんだから、小笠原に行けば比較的楽に見えるだろうと思っていたの

に、意外と個体数は少なく、帰りの船に乗るための集合時間ぎりぎり、港に近いところでようやくの出会いでした。

●ハクセキレイの場合

鳥類目録第 6 版に記載されているハクセキレイの亜種は、

台湾ハクセキレイ

Motacilla alba ocularis

ハクセキレイ

Motacilla alba lugens

ホオジロハクセキレイ

Motacilla alba leucopsis

の 3 亜種です。

そのほか、図鑑によれば、シベリアハクセキレイ

Motacilla alba baicalensis

ネパールハクセキレイ

Motacilla alba alboides

の 2 亜種も国内で観察されています。

山と溪谷社発行『日本の野鳥』（写真：叶内拓哉）によれば、それぞれの繁殖地は、

亜種台湾ハクセキレイ シベリア東部
亜種ハクセキレイ カムチャツカ、カラフト、
千島列島、沿海州、日本

亜種ホオジロハクセキレイ ウスリーアムール地方、中国中部から東部、朝鮮半島、台湾など 日本でも九州ほかで少数繁殖

亜種シベリアハクセキレイ シベリア中央部から東南部、中国北部。
となっています。

このうち、県内で観察された記録があるのは、ハクセキレイ、ホオジロハクセキレイ、シベリアハクセキレイの 3 亜種です。

台湾ハクセキレイの県内観察例は、私の記憶にはありません。私の記憶にないだけで、実際はあったかも知れませんが。

ネパールハクセキレイは与那国島で記録されているだけというので、埼玉ではあまり期待できないと思います。

●亜種台湾ハクセキレイ

過眼線があり、背中は灰色、胸の黒い部分が嘴の根元にまで伸びているのが特徴。主に

西日本や奄美大島、琉球諸島などで観察され



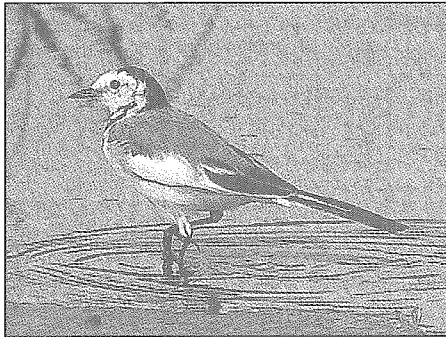
ています。この写真は、2001年5月、長崎県対馬で撮影しました。

●亜種ホオジロハクセキレイ

県内では、冬に時々観察されます。

過眼線がなくて、胸の黒い部分も喉でとまっているので、顔がずいぶん白く見えます。背中は黒いというのが日本の図鑑の記述ですが、どうやら幼鳥の背中は灰色らしいのです。

これは、今年の8月30日、さいたま市秋ヶ瀬公園近くで撮影した写真です。



ほかの特徴は亜種ホオジロハクセキレイを示していましたが、背中が灰色なので迷いました。

紆余曲折の後、『PIPIT & WAGTAILS of Europe, Asia and North America』という図鑑で背中が灰色の同亜種の幼鳥のイラストがあることから、これはそれであると判断しました。

という、県内で繁殖したのでしょうか。それにしては親らしい個体が観察されないのは、なぜでしょう。この冬、ほかにも観察されるのでしょうか。興味深いところですよ。

●亜種シベリアハクセキレイ

1991年11月7日から1992年1月19日まで、さいたま市三室地区の芝川で観察されました。県内では唯一の記録だと思います。



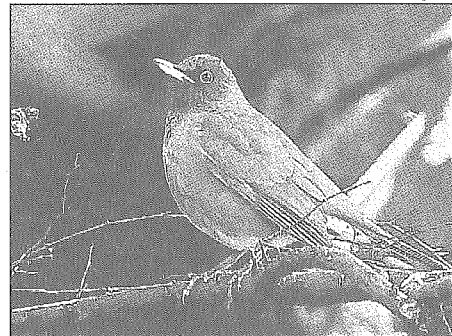
過眼線がなくて、胸の黒い部分も喉でとまっているのは亜種ホオジロハクセキレイと同じですが、背が明るい灰色であることと、雨覆が灰色で白い羽縁があることが特徴です。

鳴き声は、亜種ホオジロハクセキレイも亜種シベリアハクセキレイも、特に亜種ハクセキレイと違ったところはありません。

●亜種っておもしろいでしょう

見慣れてしまって、ああカワラヒワか、なんだハクセキレイかなんて、ほとんど双眼鏡も向けられないような鳥も、こうしてみると、簡単に見過ごせないかと、思いませんか。

亜種ダイサギ（前は亜種オオダイサギと呼んでいました）と亜種チュウダイサギの違いも面白いし、亜種シベリアアオジも県内で冬に観察できます。



亜種オオアカハラについては、本誌昨年4月号の表紙でもご紹介しました。

冬の到来をチャンスに、亜種の世界に足を踏み込んでみませんか。